郷土かみのかわの歴史・文化財

町指定文化財　愛宕塚古墳石室

今から1400～1700年前の古墳時代、各地を支配した権力者たちは、その力を示すために、土を盛り上げた一際大きなお墓を作りました。それが古墳です。肥沃な土地が広がる上三川町には、多くの古墳が残されており、確認されているだけで、その数は200以上にもなります。大きさや形は様々ですが、これだけ多くの古墳が残されているのは、当時から権力者たちが存在するための経済的な基盤が、上三川町にあったことを証明するものであります。

この古墳の中で、異質な古墳が二つあります。それは土で盛られた塚が無くなってしまい、石が組み合わさってできた石室が露出しているものです。そのうちの一つが、愛宕山公園内にある町指定文化財の愛宕塚古墳石室です。この古墳はもともと現在の石室のある位置から南30mにあり、全長50～60m・高さ6mの規模がありましたが、明治13年4月に、上三川村内の道路修繕に際して、大量の土が必要となったことから住民の手によって掘られました。その時に土の中より大谷石で作られた石室が発見され、その石室の中から被葬者の骨片や金環・須恵器などが出土し、古墳の周囲から埴輪も出土しました。その後、忠霊塔の建設に際して石室が掘り出され、現在地に移されたのです。

この古墳の石室は凝灰岩で作られており、側壁の長さは2.5m・高さ1.6m、奥壁の幅2.2m・高さ1.6m、天井の石の長さ約3m・幅2.4m・厚さ1.2mに及ぶ大きなもので、凝灰岩が多く産出される、現在の宇都宮市大谷より運ばれてきたものと考えられます。実はこのような大きな凝灰岩の切石で作られた石室を持つ古墳は、6世紀以降に現在の壬生町・下野市を中心に集中するものであり、古代に国府や国分寺・下野薬師寺が築かれ、繁栄する地域に重なります。愛宕塚古墳に葬られた人物も、下野の中心地域の中で、政治的に大きな役割を果たした権力者であったことを、そして、上三川の地が古墳時代の当時から、重要な土地であったことを、この石室が今に伝えています。

愛宕塚古墳の石室

世紀	西暦	できごと
古墳時代		
4世紀		古墳が全国で造られるようになる。
		低地に本格的なムラが形成される。
	391	倭が百済と新羅を破り、臣民にするという。
	399	倭が百済とともに新羅国境に進出する。
5世紀		大型古墳の造営が盛んになる。
		浅間神社古墳が造られる。
	404	倭が帯方地域に進出し、高句麗と戦って敗れる。
	413	倭が中国の東晋に貢物を献上する。
6世紀		巨大な切石で作られた石室を持つ古墳が造られる。群集墳が造られるなど、古墳の築造が最も盛んになる。
		愛宕塚古墳石室・兜塚古墳石室・後志部古墳・上神主狐塚古墳が造られる。
		竪穴住居にカマドが一般化する。
	527	筑紫君磐井の乱。近江毛野ら倭国軍の伽耶派遣を妨害する。
	538	百済から仏教が伝来する。
7世紀		古墳の築造が減少する。前方後円墳が消滅する。
		多功大塚山古墳が造られる
	603	冠位十二階を制定する。
	604	十七条憲法が作られる。
	673	この年、下野国分寺が創建するという。
	687	帰化した新羅人を下野国に置く。

巡回バス最寄りバス停
上三川線（ピンクのバス）
愛宕下車、徒歩10分
▼問い合わせ先＝
生涯学習課　生涯学習係
☎56 9159